

# 調査結果の概況

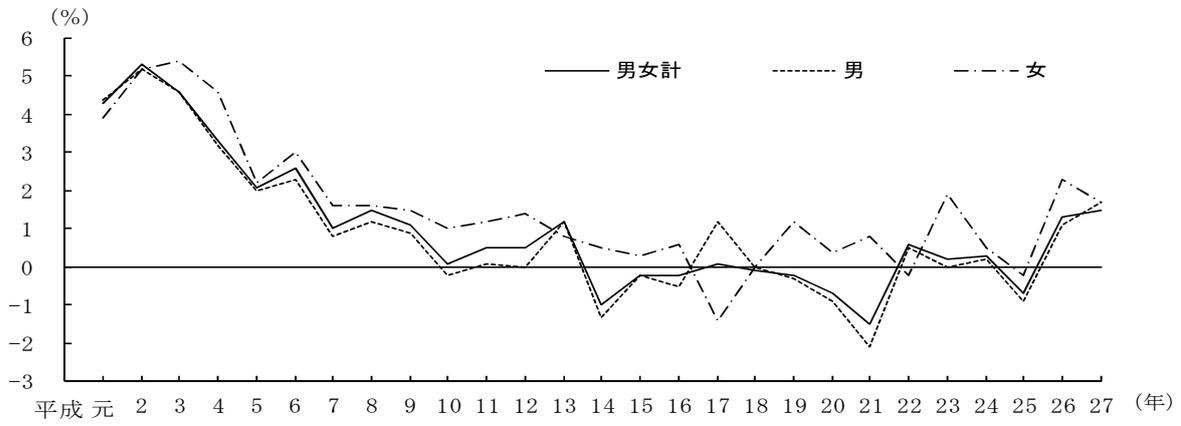
## 1 一般労働者の賃金

### (1) 賃金の推移

賃金は、男女計304.0千円(年齢42.3歳、勤続12.1年)、男性335.1千円(年齢43.1歳、勤続13.5年)、女性242.0千円(年齢40.7歳、勤続9.4年)となっており、前年と比べると、男女計では1.5%、男性では1.7%、女性では1.7%それぞれ増加し、女性の賃金は過去最高となっている。

男女間賃金格差(男性=100)は過去最小となった前年と同水準の72.2となっている。(第1図、第1表)

第1図 性別賃金の対前年増減率の推移



第1表 性別賃金、対前年増減率及び男女間賃金格差の推移

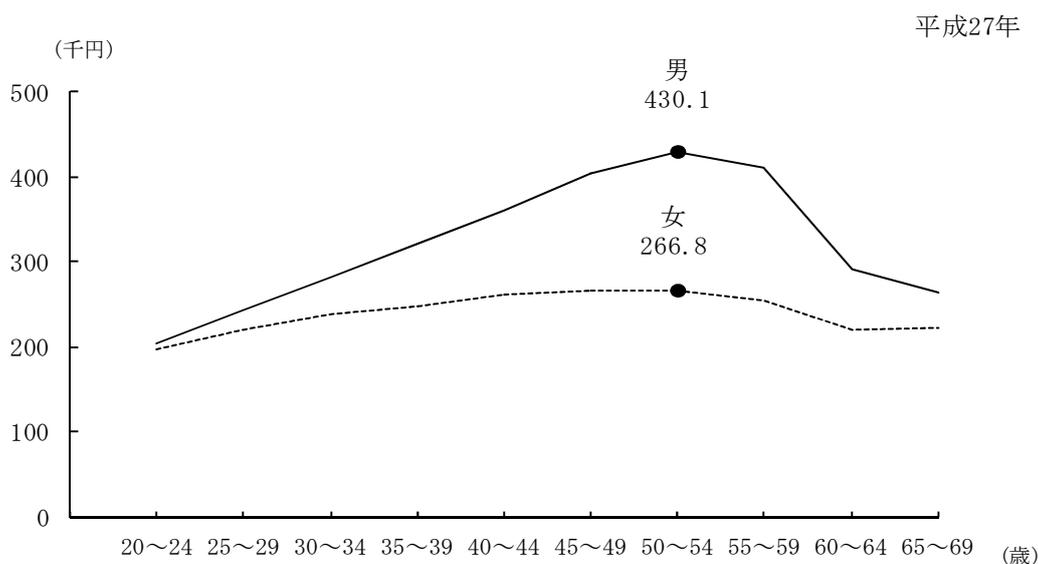
年	男女計		男		女		男女間賃金格差(男=100)
	賃金(千円)	対前年増減率(%)	賃金(千円)	対前年増減率(%)	賃金(千円)	対前年増減率(%)	
平成元年	241.8	4.3	276.1	4.4	166.3	3.9	60.2
2	254.7	5.3	290.5	5.2	175.0	5.2	60.2
3	266.3	4.6	303.8	4.6	184.4	5.4	60.7
4	275.2	3.3	313.5	3.2	192.8	4.6	61.5
5	281.1	2.1	319.9	2.0	197.0	2.2	61.6
6	288.4	2.6	327.4	2.3	203.0	3.0	62.0
7	291.3	1.0	330.0	0.8	206.2	1.6	62.5
8	295.6	1.5	334.0	1.2	209.6	1.6	62.8
9	298.9	1.1	337.0	0.9	212.7	1.5	63.1
10	299.1	0.1	336.4	-0.2	214.9	1.0	63.9
11	300.6	0.5	336.7	0.1	217.5	1.2	64.6
12	302.2	0.5	336.8	0.0	220.6	1.4	65.5
13	305.8	1.2	340.7	1.2	222.4	0.8	65.3
14	302.6	-1.0	336.2	-1.3	223.6	0.5	66.5
15	302.1	-0.2	335.5	-0.2	224.2	0.3	66.8
16	301.6	-0.2	333.9	-0.5	225.6	0.6	67.6
17	302.0	0.1	337.8	1.2	222.5	-1.4	65.9
18	301.8	-0.1	337.7	0.0	222.6	0.0	65.9
19	301.1	-0.2	336.7	-0.3	225.2	1.2	66.9
20	299.1	-0.7	333.7	-0.9	226.1	0.4	67.8
21	294.5	-1.5	326.8	-2.1	228.0	0.8	69.8
22	296.2	0.6	328.3	0.5	227.6	-0.2	69.3
23	296.8	0.2	328.3	0.0	231.9	1.9	70.6
24	297.7	0.3	329.0	0.2	233.1	0.5	70.9
25	295.7	-0.7	326.0	-0.9	232.6	-0.2	71.3
26	299.6	1.3	329.6	1.1	238.0	2.3	72.2
27	304.0	1.5	335.1	1.7	242.0	1.7	72.2
平成27年 年齢(歳)	42.3		43.1		40.7		
勤続年数(年)	12.1		13.5		9.4		

## (2) 性別にみた賃金

男女別に賃金カーブ\*をみると、男性では、年齢階級が高くなるとともに賃金も上昇し、50～54歳で430.1千円（20～24歳の賃金を100とすると209.8）と賃金がピークとなり、その後下降している。女性も50～54歳の266.8千円（同135.7）がピークとなっているが、男性に比べ、賃金カーブは緩やかとなっている。（第2図、第2表）

※賃金カーブとは、年齢(階級)とともに変化する賃金の状況をグラフで表したものをいう。以下同じ。

### 第2図 性、年齢階級別賃金



注：線上の●印は賃金のピークを示す。以下同じ。

### 第2表 性、年齢階級別賃金、対前年増減率及び年齢階級間賃金格差

平成27年

年齢階級	男			女		
	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	年齢階級間 賃金格差 (20～24歳 =100)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	年齢階級間 賃金格差 (20～24歳 =100)
年齢計	335.1	1.7	163.5	242.0	1.7	123.1
20～24歳	205.0	1.2	100.0	196.6	1.9	100.0
25～29	243.4	2.2	118.7	221.5	1.4	112.7
30～34	282.6	2.3	137.9	238.4	1.4	121.3
35～39	321.2	1.4	156.7	249.0	0.4	126.7
40～44	359.8	1.4	175.5	262.6	2.8	133.6
45～49	405.7	1.3	197.9	266.6	1.2	135.6
50～54	430.1	1.8	209.8	266.8	2.5	135.7
55～59	411.7	1.4	200.8	255.1	0.9	129.8
60～64	291.9	2.5	142.4	221.8	2.7	112.8
65～69	264.6	-1.5	129.1	223.9	6.3	113.9
年齢 (歳)	43.1			40.7		
勤続年数 (年)	13.5			9.4		

注：年齢計には、上掲の年齢階級に限らず、全ての年齢の者を含む。以下同じ。

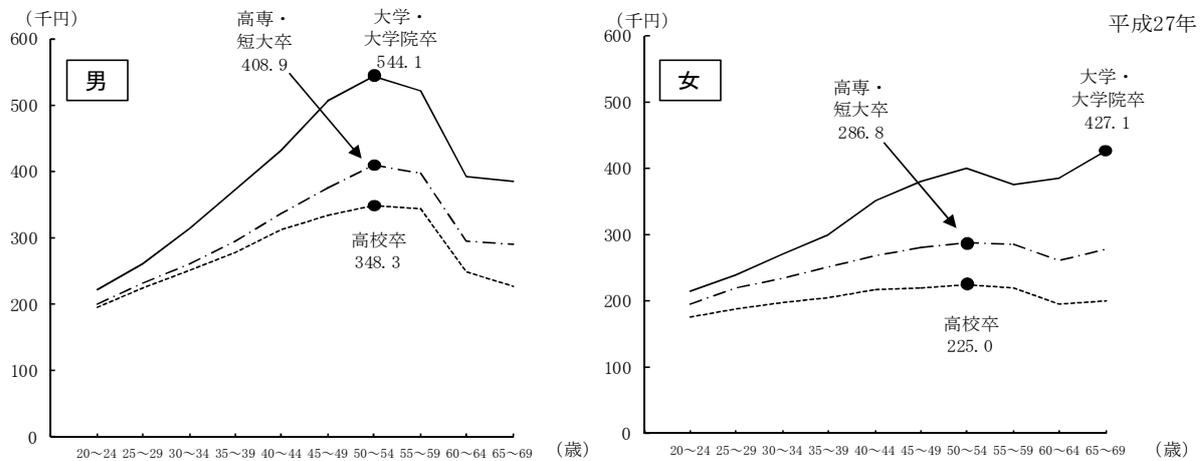
### (3) 学歴別にみた賃金

学歴別に賃金をみると、男性では、大学・大学院卒が402.5千円（前年比1.5%増）、高専・短大卒が308.8千円（同1.6%増）、高校卒が288.2千円（同0.5%増）、女性では、大学・大学院卒が287.8千円（同1.1%増）、高専・短大卒が252.5千円（同1.4%増）、高校卒が207.7千円（同1.0%増）となっており、男女ともに全ての学歴において前年を上回っている。

学歴別に賃金がピークとなる年齢階級をみると、男性では、大学・大学院卒、高専・短大卒及び高校卒の全ての学歴において50～54歳、女性では、大学・大学院卒で65～69歳、高専・短大卒及び高校卒で50～54歳となっている。

学歴別に賃金カーブをみると、男女いずれも大学・大学院卒の賃金カーブが急になっており、男性は女性に比べてその傾向が大きい。（第3図、第3表）

第3図 学歴、性、年齢階級別賃金



第3表 学歴、性、年齢階級別賃金、対前年増減率及び年齢階級間賃金格差

		大学・大学院卒			高専・短大卒			高校卒		
性、年齢階級		賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	年齢階級間 賃金格差 (20～24歳 =100)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	年齢階級間 賃金格差 (20～24歳 =100)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	年齢階級間 賃金格差 (20～24歳 =100)
男	年齢計	402.5	1.5	181.2	308.8	1.6	154.8	288.2	0.5	148.3
	20～24歳	222.1	1.5	100.0	199.5	2.2	100.0	194.3	0.1	100.0
	25～29歳	260.3	1.9	117.2	231.1	2.3	115.8	223.7	1.7	115.1
	30～34歳	313.7	2.1	141.2	259.9	0.2	130.3	251.7	1.3	129.5
	35～39歳	372.4	1.3	167.7	295.0	0.1	147.9	278.9	0.6	143.5
	40～44歳	431.4	0.5	194.2	336.6	0.1	168.7	311.2	1.4	160.2
	45～49歳	507.0	0.8	228.3	375.3	0.1	188.1	333.7	0.6	171.7
	50～54歳	544.1	2.4	245.0	408.9	2.2	205.0	348.3	-0.6	179.3
	55～59歳	521.8	1.9	234.9	396.0	0.5	198.5	343.0	-0.3	176.5
	60～64歳	391.5	1.6	176.3	295.1	0.5	147.9	249.4	0.8	128.4
65～69歳	385.2	-7.5	173.4	289.0	11.7	144.9	225.6	0.3	116.1	
年齢(歳)	42.0			40.3			44.1			
勤続年数(年)	13.1			12.0			14.0			
女	年齢計	287.8	1.1	133.9	252.5	1.4	128.9	207.7	1.0	117.7
	20～24歳	214.9	1.7	100.0	195.9	1.8	100.0	176.4	0.8	100.0
	25～29歳	239.0	0.0	111.2	220.8	3.0	112.7	188.5	-0.1	106.9
	30～34歳	271.4	0.8	126.3	235.0	1.5	120.0	197.8	0.6	112.1
	35～39歳	300.3	-1.8	139.7	250.2	1.4	127.7	205.0	-0.9	116.2
	40～44歳	350.3	6.3	163.0	269.3	1.1	137.5	217.6	0.4	123.4
	45～49歳	380.9	-1.6	177.2	281.2	1.1	143.5	220.5	0.3	125.0
	50～54歳	399.4	1.4	185.9	286.8	1.2	146.4	225.0	2.5	127.6
	55～59歳	375.6	-3.3	174.8	284.6	-1.9	145.3	220.4	2.0	124.9
	60～64歳	385.7	-0.5	179.5	260.9	2.1	133.2	194.4	0.8	110.2
65～69歳	* 427.1	16.3	198.7	278.6	10.1	142.2	201.3	2.8	114.1	
年齢(歳)	35.2			40.1			44.2			
勤続年数(年)	7.3			9.6			10.6			

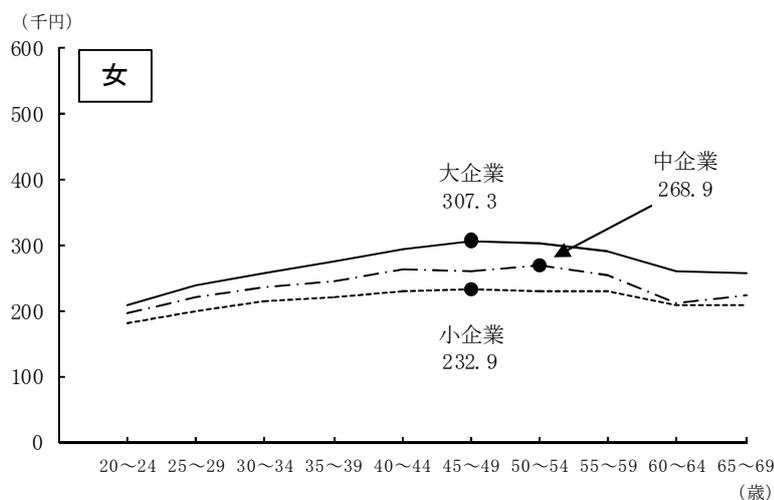
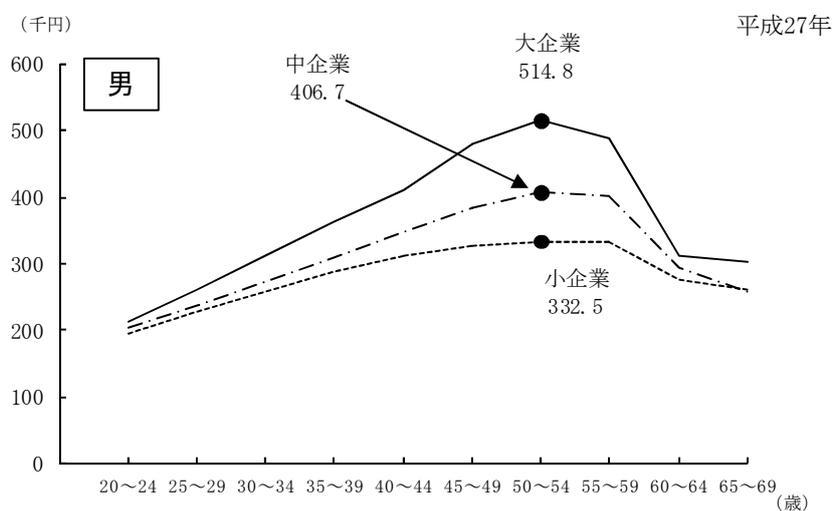
平成27年

#### (4) 企業規模別にみた賃金

企業規模別に賃金をみると、男性では、大企業が387.7千円（前年比1.5%増）、中企業が320.3千円（同2.6%増）、小企業が288.5千円（同0.9%増）、女性では、大企業が268.4千円（同1.2%増）、中企業が240.4千円（同2.8%増）、小企業が216.4千円（同0.8%増）となっており、男女ともに全ての企業規模において前年を上回っている。また、大企業の賃金を100とすると、中企業の賃金は、男性で82.6（前年81.7）、女性で89.6（同88.2）、小企業の賃金は、男性で74.4（同74.9）、女性で80.6（同80.9）となっている。

賃金がピークとなる年齢階級を企業規模別にみると、男性では、全ての企業規模において50～54歳で、大企業514.8千円（20～24歳の賃金を100とすると240.9）、中企業406.7千円（同199.8）、小企業332.5千円（同170.8）となっている。女性では、大企業及び小企業において45～49歳で、大企業307.3千円（同146.3）、小企業232.9千円（同128.6）、中企業が50～54歳で268.9千円（同136.6）となっており、男性に比べ賃金カーブが緩やかとなっている。（第4図、第4表）

第4図 企業規模、性、年齢階級別賃金



第4表 企業規模、性、年齢階級別賃金、対前年増減率、企業規模間賃金格差及び年齢階級間賃金格差

平成27年

性、年齢階級	大企業			中企業				小企業				
	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	年齢階級 間賃金格差 (20~24歳 =100)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金格差		賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金格差		
						企業規模 間賃金格差 (大企業=100)	年齢階級 間賃金格差 (20~24歳 =100)			企業規模 間賃金格差 (大企業=100)	年齢階級 間賃金格差 (20~24歳 =100)	
男	年齢計	387.7	1.5	181.4	320.3	2.6	82.6 (81.7)	157.3	288.5	0.9	74.4 (74.9)	148.2
	20~24歳	213.7	1.6	100.0	203.6	1.3	95.3 (95.5)	100.0	194.7	0.4	91.1 (92.2)	100.0
	25~29	259.2	1.8	121.3	237.9	2.9	91.8 (90.7)	116.8	226.8	1.7	87.5 (87.5)	116.5
	30~34	312.0	2.9	146.0	271.4	1.8	87.0 (87.9)	133.3	258.2	1.2	82.8 (84.1)	132.6
	35~39	362.3	1.4	169.5	308.9	2.3	85.3 (84.5)	151.7	288.0	0.8	79.5 (79.9)	147.9
	40~44	411.2	1.4	192.4	348.1	2.7	84.7 (83.6)	171.0	312.4	0.8	76.0 (76.4)	160.5
	45~49	480.3	1.5	224.8	382.8	2.5	79.7 (78.9)	188.0	325.2	0.5	67.7 (68.4)	167.0
	50~54	514.8	2.7	240.9	406.7	1.9	79.0 (79.7)	199.8	332.5	-0.3	64.6 (66.5)	170.8
	55~59	487.6	0.5	228.2	401.0	4.3	82.2 (79.3)	197.0	332.1	-0.5	68.1 (68.8)	170.6
	60~64	312.0	1.9	146.0	292.3	4.1	93.7 (91.8)	143.6	276.1	1.0	88.5 (89.3)	141.8
	65~69	303.0	-8.3	141.8	256.3	-5.9	84.6 (82.5)	125.9	259.9	4.2	85.8 (75.5)	133.5
	年齢(歳)	42.5			42.6				44.5			
	勤続年数(年)	15.9			12.7				11.4			
女	年齢計	268.4	1.2	127.8	240.4	2.8	89.6 (88.2)	122.2	216.4	0.8	80.6 (80.9)	119.5
	20~24歳	210.0	1.9	100.0	196.8	2.3	93.7 (93.3)	100.0	181.1	1.0	86.2 (87.0)	100.0
	25~29	237.8	0.2	113.2	220.3	2.3	92.6 (90.8)	111.9	200.0	1.6	84.1 (82.9)	110.4
	30~34	258.2	0.2	123.0	237.3	3.0	91.9 (89.4)	120.6	213.8	0.7	82.8 (82.4)	118.1
	35~39	276.0	0.6	131.4	246.3	0.2	89.2 (89.5)	125.2	221.6	0.5	80.3 (80.4)	122.4
	40~44	292.9	3.1	139.5	262.2	4.4	89.5 (88.4)	133.2	230.0	0.7	78.5 (80.4)	127.0
	45~49	307.3	2.0	146.3	260.9	0.7	84.9 (86.0)	132.6	232.9	1.7	75.8 (76.0)	128.6
	50~54	303.2	0.6	144.4	268.9	7.3	88.7 (83.1)	136.6	229.3	-2.6	75.6 (78.1)	126.6
	55~59	291.0	0.9	138.6	252.7	1.2	86.8 (86.6)	128.4	229.7	1.2	78.9 (78.7)	126.8
	60~64	261.0	5.9	124.3	212.5	0.6	81.4 (85.7)	108.0	208.9	3.7	80.0 (81.7)	115.4
	65~69	258.5	3.5	123.1	225.3	13.0	87.2 (79.8)	114.5	209.5	4.0	81.0 (80.7)	115.7
	年齢(歳)	39.3			40.7				42.1			
	勤続年数(年)	10.3			9.1				8.9			

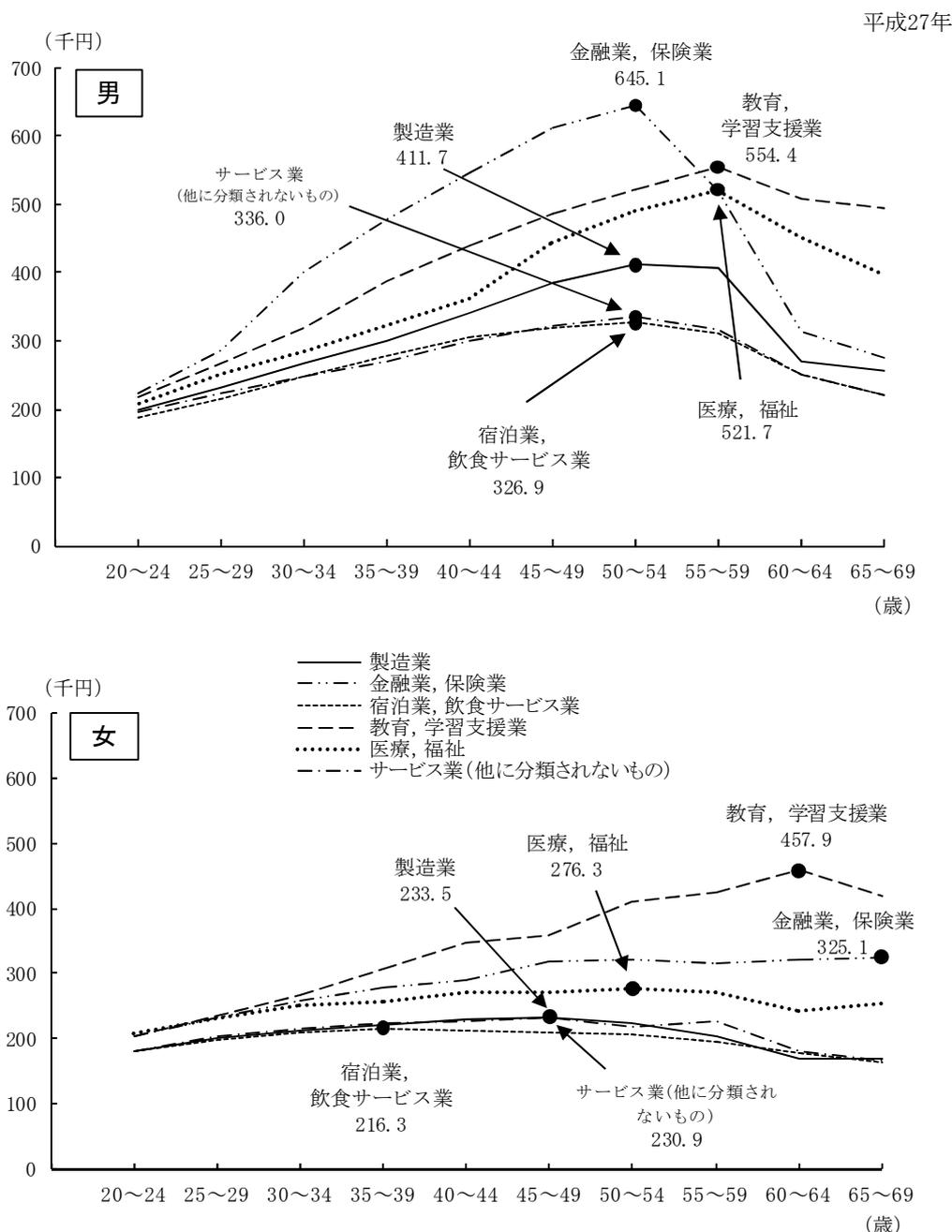
注：( )内は、平成26年の数値である。

### (5) 産業別にみた賃金

第5表に掲載する主な産業別に賃金をみると、男性では、金融業，保険業(482.3千円)が最も高く、次いで教育，学習支援業(442.2千円)となり、宿泊業，飲食サービス業(270.0千円)が最も低くなっている。女性では、情報通信業(313.7千円)が最も高く、宿泊業，飲食サービス業(196.2千円)が最も低くなっている。

賃金カーブをみると、男性では、金融業，保険業は50～54歳で賃金がピークとなり、その後大きく下降している。また、宿泊業，飲食サービス業及びサービス業(他に分類されないもの)は賃金カーブが緩やかとなっている。女性では、教育，学習支援業及び金融業，保険業は、年齢階級が高くなるとともにおおむね賃金も上昇しているが、製造業，宿泊業，飲食サービス業，医療，福祉及びサービス業(他に分類されないもの)は賃金カーブが緩やかとなっている。(第5図、第5表)

第5図 産業、性、年齢階級別賃金



第5表 産業、性、年齢階級別賃金、対前年増減率及び年齢階級間賃金格差

平成27年

性、年齢階級		建設業	製造業	情報通信業	運輸業、郵便業	卸売業、小売業	金融業、保険業	学術研究、専門・技術サービス業	宿泊業、飲食サービス業	生活関連サービス業、娯楽業	教育、学習支援業	医療、福祉	サービス業（他に分類されないもの）	
男	賃金（千円）	年齢計	341.7	318.0	412.5	275.2	341.5	482.3	396.5	270.0	288.9	442.2	352.6	276.2
		20～24歳	216.8	198.6	224.7	200.9	205.5	223.0	212.4	187.1	200.0	219.0	209.4	194.7
		25～29	253.9	232.1	270.4	236.5	240.3	285.1	260.2	215.7	230.4	265.9	252.8	223.5
		30～34	298.5	268.1	316.7	263.3	279.7	402.5	323.7	248.1	269.2	318.1	286.2	246.6
		35～39	331.0	299.4	388.4	279.3	324.8	478.1	373.4	278.8	309.5	387.0	324.6	271.0
		40～44	373.7	340.0	445.3	294.8	365.5	545.3	431.3	304.1	326.6	438.9	362.2	301.1
		45～49	413.0	385.2	515.2	303.8	416.3	612.9	473.5	319.0	359.2	487.5	444.7	321.4
		50～54	409.3	411.7	577.6	308.7	447.4	645.1	511.4	326.9	350.3	521.3	489.4	336.0
		55～59	408.3	407.4	546.6	301.3	431.0	517.9	497.9	310.6	345.8	554.4	521.7	315.8
		60～64	318.3	268.9	292.6	226.8	289.5	313.2	350.0	251.1	255.2	508.7	450.8	250.6
		65～69	277.1	256.6	317.3	200.9	268.4	275.4	364.7	221.9	229.3	495.5	398.1	219.5
		賃金（年齢計）の対前年増減率（%）	2.9	0.6	7.0	-0.2	0.9	3.6	-1.4	-0.8	-0.8	1.4	4.2	-0.2
		年齢（歳）	44.4	42.2	40.9	46.4	42.2	43.1	43.1	41.4	40.1	46.5	40.6	45.9
		勤続年数（年）	13.5	15.2	14.2	12.3	14.3	15.9	13.9	9.5	10.0	13.4	8.6	10.1
女	賃金（千円）	年齢計	157.6	160.1	183.6	137.0	166.2	216.3	186.7	144.3	144.5	201.9	168.4	141.9
		20～24歳	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		25～29	117.1	116.9	120.3	117.7	116.9	127.8	122.5	115.3	115.2	121.4	120.7	114.8
		30～34	137.7	135.0	140.9	131.1	136.1	180.5	152.4	132.6	134.6	145.3	136.7	126.7
		35～39	152.7	150.8	172.9	139.0	158.1	214.4	175.8	149.0	154.8	176.7	155.0	139.2
		40～44	172.4	171.2	198.2	146.7	177.9	244.5	203.1	162.5	163.3	200.4	173.0	154.6
		45～49	190.5	194.0	229.3	151.2	202.6	274.8	222.9	170.5	179.6	222.6	212.4	165.1
		50～54	188.8	207.3	257.1	153.7	217.7	289.3	240.8	174.7	175.2	238.0	233.7	172.6
		55～59	188.3	205.1	243.3	150.0	209.7	232.2	234.4	166.0	172.9	253.2	249.1	162.2
		60～64	146.8	135.4	130.2	112.9	140.9	140.4	164.8	134.2	127.6	232.3	215.3	128.7
		65～69	127.8	129.2	141.2	100.0	130.6	123.5	171.7	118.6	114.7	226.3	190.1	112.7
		賃金（年齢計）の対前年増減率（%）	3.7	2.0	8.8	1.6	-1.8	3.3	0.7	0.4	0.4	-1.6	1.9	0.8
		年齢（歳）	41.4	42.7	37.0	40.6	39.4	41.0	38.8	40.2	38.1	38.5	41.0	41.7
		勤続年数（年）	10.5	11.9	10.0	8.9	9.8	11.3	9.2	7.3	7.9	9.3	8.2	7.5
賃金（千円）	年齢計	113.9	116.2	142.3	114.8	121.3	137.0	137.6	108.5	113.9	151.3	122.1	118.4	
		20～24歳	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
		25～29	105.2	110.3	115.7	112.0	113.0	113.6	120.9	108.5	115.2	116.1	111.3	
		30～34	114.2	117.0	124.9	118.4	120.6	126.8	132.8	115.9	115.8	131.3	120.6	
		35～39	109.8	121.2	138.3	117.3	125.6	136.3	146.3	119.6	119.9	151.4	124.7	
		40～44	121.0	127.0	168.5	123.2	136.5	141.9	144.9	116.9	124.5	170.8	130.9	
		45～49	123.3	128.9	177.5	121.4	133.8	157.3	157.9	116.3	129.1	176.4	130.5	
		50～54	121.4	123.1	200.5	117.1	131.7	158.3	150.8	114.5	124.5	201.9	133.6	
		55～59	126.7	113.0	203.7	111.9	123.4	155.4	154.1	108.1	113.5	209.4	130.8	
		60～64	100.6	93.3	143.1	99.5	102.4	157.7	142.9	97.8	96.9	225.3	117.3	
		65～69	107.4	92.9	90.1	105.9	113.2	160.1	141.3	90.9	93.3	205.7	122.6	
	年齢階級間賃金格差	年齢計	113.9	116.2	142.3	114.8	121.3	137.0	137.6	108.5	113.9	151.3	122.1	118.4
			20～24歳	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
			25～29	105.2	110.3	115.7	112.0	113.0	113.6	120.9	108.5	115.2	116.1	111.3
		30～34	114.2	117.0	124.9	118.4	120.6	126.8	132.8	115.9	115.8	131.3	120.6	
		35～39	109.8	121.2	138.3	117.3	125.6	136.3	146.3	119.6	119.9	151.4	124.7	
		40～44	121.0	127.0	168.5	123.2	136.5	141.9	144.9	116.9	124.5	170.8	130.9	
		45～49	123.3	128.9	177.5	121.4	133.8	157.3	157.9	116.3	129.1	176.4	130.5	
		50～54	121.4	123.1	200.5	117.1	131.7	158.3	150.8	114.5	124.5	201.9	133.6	
		55～59	126.7	113.0	203.7	111.9	123.4	155.4	154.1	108.1	113.5	209.4	130.8	
		60～64	100.6	93.3	143.1	99.5	102.4	157.7	142.9	97.8	96.9	225.3	117.3	
		65～69	107.4	92.9	90.1	105.9	113.2	160.1	141.3	90.9	93.3	205.7	122.6	
		賃金（年齢計）の対前年増減率（%）	3.7	2.0	8.8	1.6	-1.8	3.3	0.7	0.4	0.4	-1.6	1.9	
		年齢（歳）	41.4	42.7	37.0	40.6	39.4	41.0	38.8	40.2	38.1	38.5	41.0	
		勤続年数（年）	10.5	11.9	10.0	8.9	9.8	11.3	9.2	7.3	7.9	9.3	8.2	

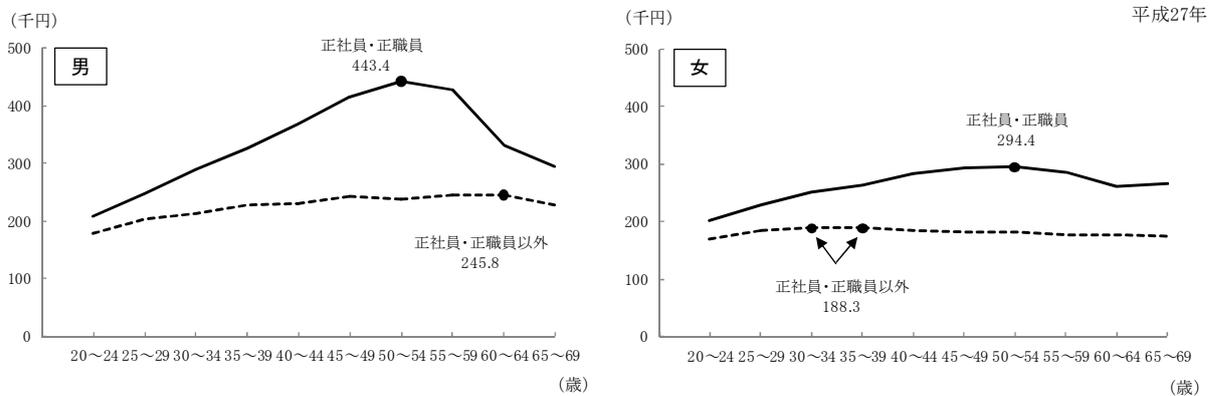
## (6) 雇用形態別の賃金

雇用形態別の賃金をみると、男女計では、正社員・正職員321.1千円（年齢41.5歳、勤続12.9年）、正社員・正職員以外205.1千円（年齢46.8歳、勤続7.9年）となっている。男女別にみると、男性では、正社員・正職員348.3千円（前年比1.5%増）、正社員・正職員以外229.1千円（同3.1%増）、女性では、正社員・正職員259.3千円（同1.1%増）、正社員・正職員以外181.0千円（同1.0%増）となっている。

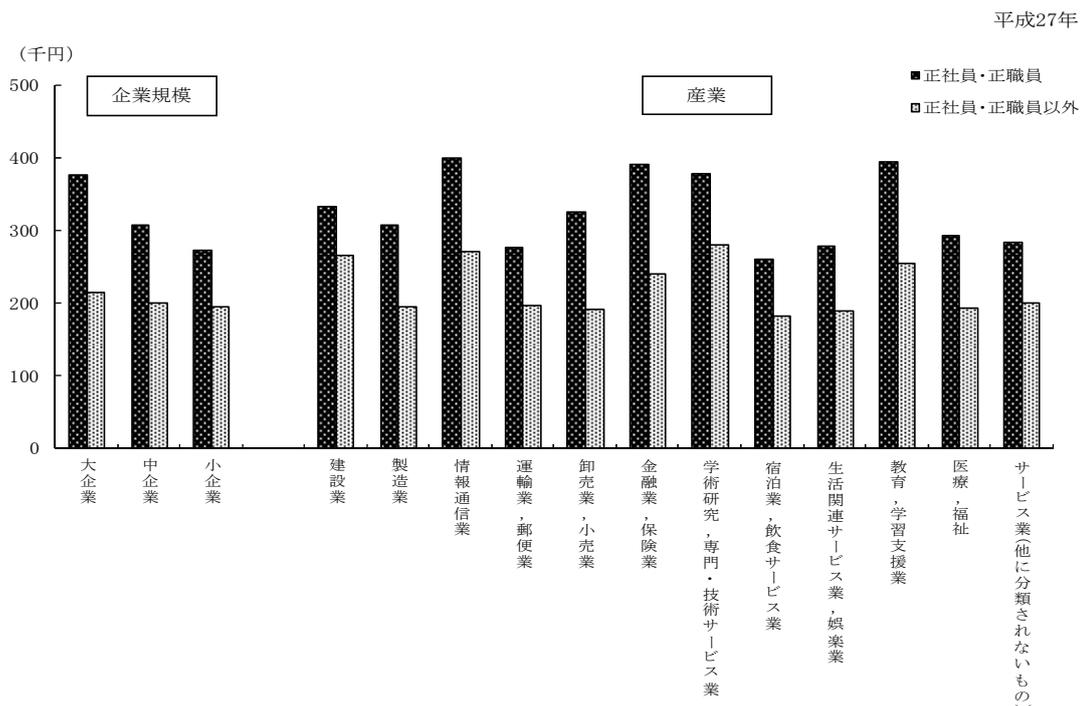
年齢階級別にみると、正社員・正職員以外は、男女いずれも年齢階級が高くなっても賃金の上昇があまり見られない。

正社員・正職員の賃金を100とすると、正社員・正職員以外の賃金は、男女計で63.9（前年63.0）、男性で65.8（同64.7）、女性で69.8（同69.8）となり、雇用形態間賃金格差は男女計で過去最小となっている。なお、賃金格差が大きいのは、企業規模別では、大企業で56.9（同56.9）、主な産業別では、卸売業、小売業で58.9（同57.8）となっている。（第6図、第7図、第6表、第7表、第8表）

### 第6図 雇用形態、性、年齢階級別賃金



### 第7図 雇用形態、企業規模・主な産業別賃金（男女計）



第6表 雇用形態、性、年齢階級別賃金、対前年増減率及び雇用形態間賃金格差

平成27年

年齢階級	男女計					男					女				
	正社員・正職員		正社員・正職員以外		雇用形態間賃金格差 (正社員・正職員=100)	正社員・正職員		正社員・正職員以外		雇用形態間賃金格差 (正社員・正職員=100)	正社員・正職員		正社員・正職員以外		雇用形態間賃金格差 (正社員・正職員=100)
	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)		賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)		賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	
年齢計	321.1	1.1	205.1	2.4	63.9 (63.0)	348.3	1.5	229.1	3.1	65.8 (64.7)	259.3	1.1	181.0	1.0	69.8 (69.8)
20～24歳	204.9	1.2	173.4	1.9	84.6 (84.0)	208.1	1.1	179.0	1.2	86.0 (85.9)	201.2	1.5	168.8	2.7	83.9 (82.9)
25～29	240.6	1.6	192.4	2.4	80.0 (79.3)	247.8	1.9	202.6	3.8	81.8 (80.2)	229.1	1.2	183.5	1.3	80.1 (80.1)
30～34	276.9	2.0	200.6	-0.1	72.4 (74.0)	289.0	2.3	214.2	-0.3	74.1 (76.1)	250.0	1.2	188.3	-0.2	75.3 (76.3)
35～39	309.7	0.6	204.8	0.9	66.1 (65.9)	327.6	1.1	227.6	1.6	69.5 (69.2)	263.7	-0.3	188.3	0.6	71.4 (70.7)
40～44	345.0	1.0	201.7	0.4	58.5 (58.8)	367.9	1.2	230.1	1.6	62.5 (62.3)	283.7	2.3	184.1	-0.3	64.9 (66.6)
45～49	381.9	0.7	204.0	2.7	53.4 (52.4)	416.0	1.2	243.5	5.3	58.5 (56.3)	291.9	0.3	181.7	0.0	62.2 (62.4)
50～54	402.9	1.1	202.1	2.6	50.2 (49.4)	443.4	1.7	238.8	2.0	53.9 (53.7)	294.4	1.0	180.9	2.2	61.4 (60.7)
55～59	392.2	0.5	206.9	4.1	52.8 (50.9)	428.8	1.0	245.5	6.1	57.3 (54.5)	285.1	-0.1	176.7	2.1	62.0 (60.6)
60～64	312.4	2.0	226.8	3.0	72.6 (71.9)	330.9	2.8	245.8	2.9	74.3 (74.2)	261.5	1.2	176.5	1.6	67.5 (67.2)
65～69	287.6	-2.8	212.7	3.7	74.0 (69.4)	294.8	-5.0	226.8	3.1	76.9 (70.8)	266.4	5.3	175.0	4.5	65.7 (66.2)
年齢(歳)	41.5		46.8			42.3		49.2			39.7		44.3		
勤続年数(年)	12.9		7.9			14.0		9.1			10.2		6.8		

注：( )内は、平成26年の数値である。

第7表 雇用形態、性、企業規模別賃金、対前年増減率及び雇用形態間賃金格差

平成27年

企業規模	男女計					男					女				
	正社員・正職員		正社員・正職員以外		雇用形態間賃金格差 (正社員・正職員=100)	正社員・正職員		正社員・正職員以外		雇用形態間賃金格差 (正社員・正職員=100)	正社員・正職員		正社員・正職員以外		雇用形態間賃金格差 (正社員・正職員=100)
	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)		賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)		賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	
大企業	378.2	1.2	215.3	1.2	56.9 (56.9)	408.4	1.7	238.7	1.7	58.4 (58.5)	295.9	0.8	190.0	-0.3	64.2 (64.9)
中企業	308.4	1.8	200.5	3.8	65.0 (63.8)	333.9	2.4	222.7	4.3	66.7 (65.5)	257.7	1.6	178.8	2.3	69.4 (68.9)
小企業	273.4	0.5	196.0	1.8	71.7 (70.8)	294.4	0.5	223.4	3.4	75.9 (73.7)	226.4	0.6	171.0	1.1	75.5 (75.2)

注：( )内は、平成26年の数値である。

第8表 雇用形態、性、主な産業別賃金、対前年増減率及び雇用形態間賃金格差

平成27年

産業	男女計					男					女				
	正社員・正職員		正社員・正職員以外		雇用形態間賃金格差 (正社員・正職員=100)	正社員・正職員		正社員・正職員以外		雇用形態間賃金格差 (正社員・正職員=100)	正社員・正職員		正社員・正職員以外		雇用形態間賃金格差 (正社員・正職員=100)
	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)		賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)		賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	
建設業	333.3	2.1	266.1	3.9	79.8 (78.4)	346.4	2.5	282.9	4.2	81.7 (80.4)	243.9	2.7	189.4	4.5	77.7 (76.3)
製造業	308.9	0.4	196.7	3.6	63.7 (61.7)	328.4	0.4	221.5	3.0	67.4 (65.8)	226.7	1.0	164.6	2.4	72.6 (71.6)
情報通信業	400.9	8.1	271.2	1.0	67.6 (72.4)	418.5	7.5	312.9	2.6	74.8 (78.3)	332.0	11.1	222.7	-6.0	67.1 (79.3)
運輸業, 郵便業	277.6	-0.6	197.7	1.5	71.2 (69.7)	282.9	-0.6	207.9	1.4	73.5 (72.0)	231.0	0.7	172.8	3.3	74.8 (72.9)
卸売業, 小売業	326.3	-0.2	192.3	1.8	58.9 (57.8)	353.6	1.0	219.3	1.6	62.0 (61.7)	251.3	-3.3	175.4	2.0	69.8 (66.2)
金融業, 保険業	392.2	3.3	241.2	6.2	61.5 (59.8)	493.1	3.8	313.7	10.0	63.6 (60.1)	287.2	3.6	198.0	0.6	68.9 (71.0)
学術研究, 専門・技術サービス業	379.9	0.2	280.3	0.6	73.8 (73.5)	402.8	-1.2	330.7	-0.3	82.1 (81.4)	295.1	2.3	220.1	5.6	74.6 (72.2)
宿泊業, 飲食サービス業	261.5	-0.8	184.0	2.4	70.4 (68.1)	285.1	-0.9	203.1	2.0	71.2 (69.2)	212.9	-0.4	170.2	2.6	79.9 (77.6)
生活関連サービス業, 娯楽業	279.4	0.2	190.3	-4.3	68.1 (71.3)	309.7	-0.6	199.9	-3.0	64.5 (66.1)	231.5	2.9	183.9	-5.1	79.4 (86.1)
教育, 学習支援業	395.3	-1.1	255.3	1.7	64.6 (62.8)	457.0	1.5	293.7	1.0	64.3 (64.6)	319.5	-2.4	221.6	3.1	69.4 (65.7)
医療, 福祉	293.1	1.9	194.1	0.8	66.2 (67.0)	367.4	4.0	220.4	0.6	60.0 (62.0)	262.9	1.1	186.5	0.6	70.9 (71.3)
サービス業 (他に分類されないもの)	284.9	-1.1	200.9	1.1	70.5 (68.9)	300.7	-0.7	211.8	2.7	70.4 (68.1)	236.1	0.3	185.5	-2.1	78.6 (80.5)

注：( )内は、平成26年の数値である。

(7) 賃金の分布

男女別に賃金の分布をみると、男性では、55～59歳までは年齢階級が高くなるとともに労働者が最も多く分布する賃金階級も高くなる傾向にある。一方、女性では、労働者が最も多く分布する賃金階級の年齢による違いは男性ほど大きくない。

賃金分布の広がりを分散係数でみると、男女いずれも年齢階級が高くなるともにおおむね大きくなっている。また、学歴別に分位数で広がりをみると、男女とも30歳以上の各年齢階級で大学・大学院卒が他の学歴に比べ大きくなっており、年齢階級が高くなるほどその傾向は顕著となっている。（第9表、第8図）

第9表 賃金階級、性、年齢階級別労働者数割合（2-1）

平成27年

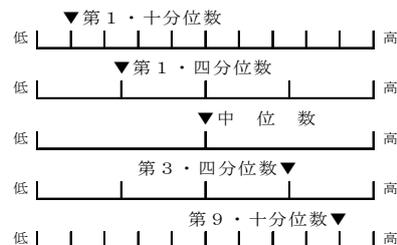
賃金階級	男										
	年齢計	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
～ 99.9 (千円)	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2
100.0 ～ 119.9	0.3	0.7	0.3	0.2	0.2	0.1	0.1	0.2	0.3	0.7	1.8
120.0 ～ 139.9	1.2	2.6	1.3	0.9	0.7	0.6	0.5	0.7	0.9	3.1	6.0
140.0 ～ 159.9	2.8	6.5	3.3	2.1	1.7	1.4	1.3	1.5	2.1	6.7	10.3
160.0 ～ 179.9	4.6	15.1	5.5	3.6	2.5	2.1	2.0	2.1	3.2	9.0	11.6
180.0 ～ 199.9	6.1	21.3	10.4	5.8	3.9	3.0	2.7	2.8	3.3	10.0	11.7
200.0 ～ 219.9	7.6	23.7	15.7	9.0	5.7	3.9	3.2	3.3	3.7	11.0	10.1
220.0 ～ 239.9	7.9	14.7	17.5	11.2	7.3	5.3	4.1	3.5	4.3	8.5	8.7
240.0 ～ 259.9	7.8	7.9	15.2	12.3	9.2	6.1	4.7	4.1	4.6	8.5	7.3
260.0 ～ 279.9	7.1	3.7	10.6	11.8	9.2	6.9	5.0	4.6	4.3	6.3	4.8
280.0 ～ 299.9	6.5	1.7	7.2	9.8	9.5	7.4	5.8	4.8	4.6	5.2	3.3
300.0 ～ 319.9	5.9	0.9	4.5	8.1	8.6	7.7	5.8	4.9	5.0	4.3	4.6
320.0 ～ 339.9	5.1	0.4	2.8	6.2	7.5	7.2	5.7	5.0	4.4	3.4	2.4
340.0 ～ 359.9	4.5	0.3	1.5	4.8	6.2	6.7	5.5	4.6	4.7	2.9	2.4
360.0 ～ 399.9	7.6	0.2	1.7	5.9	9.6	11.5	10.7	9.4	9.2	3.9	3.1
400.0 ～ 449.9	7.3	0.1	1.2	4.1	7.8	10.8	10.7	10.9	11.1	4.4	2.8
450.0 ～ 499.9	5.0	0.0	0.4	1.6	4.2	6.7	8.4	8.8	8.7	3.1	1.6
500.0 ～ 599.9	6.1	0.0	0.4	1.3	3.5	7.3	11.6	12.4	11.9	3.5	2.9
600.0 ～ 699.9	3.2	0.0	0.1	0.5	1.5	2.8	6.3	7.8	6.5	2.2	1.3
700.0 ～ 799.9	1.5	-	0.1	0.2	0.5	1.1	2.7	4.4	3.4	1.4	1.2
800.0 ～ 899.9	0.7	-	0.0	0.1	0.3	0.5	1.3	2.0	1.7	0.6	0.7
900.0 ～ 999.9	0.3	-	0.0	0.1	0.1	0.3	0.6	0.8	0.8	0.3	0.3
1000.0 ～ 1199.9	0.3	-	0.0	0.1	0.1	0.2	0.6	0.8	0.7	0.3	0.4
1200.0 ～	0.4	-	0.0	0.1	0.2	0.3	0.5	0.8	0.7	0.7	0.6
平均値 (千円)	335.1	205.0	243.4	282.6	321.2	359.8	405.7	430.1	411.7	291.9	264.6
第1・十分位数 <sup>1)</sup> (千円)	183.2	160.2	178.6	191.7	203.8	214.6	220.1	216.4	201.0	158.5	144.2
第1・四分位数 <sup>1)</sup> (千円)	225.8	180.0	205.5	225.6	246.8	267.1	284.0	289.2	272.0	190.5	171.4
中位数 <sup>1)</sup> (千円)	293.8	203.0	235.2	267.4	300.1	334.9	372.5	393.6	379.7	241.9	216.5
第3・四分位数 <sup>1)</sup> (千円)	399.4	225.8	269.8	319.9	370.4	421.8	489.3	526.8	504.0	329.8	295.2
第9・十分位数 <sup>1)</sup> (千円)	534.5	251.5	311.1	383.9	453.1	525.2	621.6	679.2	648.1	476.9	425.3
十分位分散係数 <sup>2)</sup>	0.60	0.22	0.28	0.36	0.42	0.46	0.54	0.59	0.59	0.66	0.65
	(0.59)	(0.23)	(0.28)	(0.35)	(0.41)	(0.47)	(0.53)	(0.56)	(0.60)	(0.69)	(0.69)
四分位分散係数 <sup>2)</sup>	0.30	0.11	0.14	0.18	0.21	0.23	0.28	0.30	0.31	0.29	0.29
	(0.29)	(0.11)	(0.13)	(0.17)	(0.20)	(0.23)	(0.27)	(0.28)	(0.30)	(0.28)	(0.29)

注：（ ）内は、平成26年の数値である。

1) 分位数とは、分布の形を示す値である。具体的には、該当労働者を賃金の低い者から高い者へと一列に並べたとき、以下の説明内容に該当する者の賃金である。

図示すれば下図のとおりである。

- 第1・十分位数 …… 低い方から数えて全体の10分の1番目に該当する者の賃金
- 第1・四分位数 …… 低い方から数えて全体の4分の1番目に該当する者の賃金
- 中位数 …… 低い方（あるいは高い方）から数えて全体の2分の1番目に該当する者の賃金
- 第3・四分位数 …… 高い方から数えて全体の4分の1番目に該当する者の賃金
- 第9・十分位数 …… 高い方から数えて全体の10分の1番目に該当する者の賃金



2) 分散係数とは、分布の広がりを示す指標の一つであり、次の算式により計算された数値をいう。

一般に、その値が小さいほど分布の広がりの程度が小さいことを示す。

○ 十分位分散係数 = 
$$\frac{\text{第9・十分位数} - \text{第1・十分位数}}{2 \times \text{中位数}}$$

○ 四分位分散係数 = 
$$\frac{\text{第3・四分位数} - \text{第1・四分位数}}{2 \times \text{中位数}}$$

第9表 賃金階級、性、年齢階級別労働者数割合（2-2）

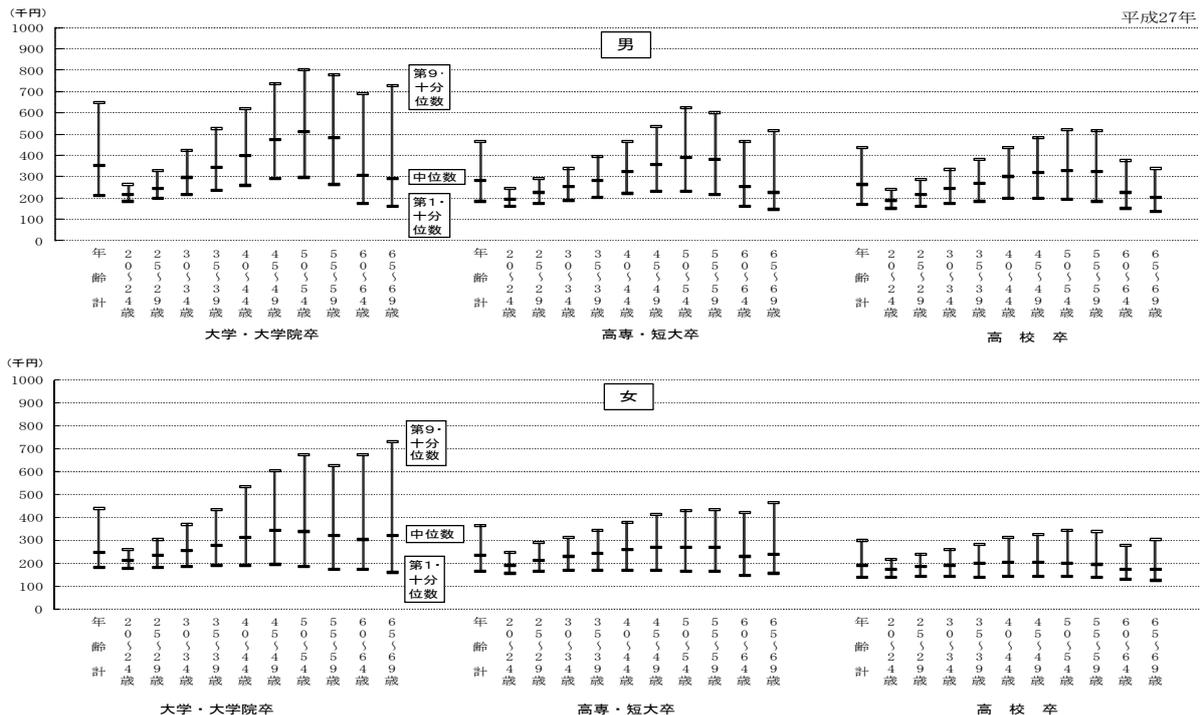
平成27年

賃金階級	女										
	年齢計	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳
計	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
～ 99.9 (千円)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
100.0 ～ 119.9	0.2	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.4	0.9
120.0 ～ 139.9	1.3	0.7	0.8	0.8	1.1	1.0	1.2	1.4	1.8	3.4	5.0
140.0 ～ 159.9	4.8	4.0	3.0	3.2	3.7	3.9	4.8	5.0	6.6	11.8	13.3
160.0 ～ 179.9	9.0	11.1	6.8	6.5	6.8	7.6	8.2	8.9	10.9	17.0	17.8
180.0 ～ 199.9	11.7	19.5	10.7	9.2	8.8	9.3	10.3	11.1	11.9	14.8	13.6
200.0 ～ 219.9	12.1	21.4	14.7	11.9	10.4	9.2	9.3	10.3	10.3	11.8	9.9
220.0 ～ 239.9	12.0	19.0	17.8	13.2	11.5	9.2	9.3	8.9	9.1	8.3	8.6
240.0 ～ 259.9	10.2	11.9	15.1	13.1	11.2	9.0	7.8	7.8	7.3	6.8	5.5
260.0 ～ 279.9	8.2	5.9	11.0	11.0	9.7	8.9	7.0	6.9	6.3	5.0	4.9
280.0 ～ 299.9	6.5	3.4	7.8	8.8	8.3	7.5	6.8	5.4	5.2	3.6	3.4
300.0 ～ 319.9	5.1	1.4	4.6	6.7	7.0	6.8	5.6	5.3	4.8	2.5	1.8
320.0 ～ 359.9	3.9	0.7	2.9	4.8	5.4	5.4	4.8	4.8	3.9	2.0	1.8
360.0 ～ 399.9	5.3	0.5	2.7	5.1	6.6	8.4	7.8	6.7	6.1	3.0	3.1
400.0 ～ 449.9	3.4	0.2	1.0	2.7	4.3	5.3	5.3	5.0	4.5	2.0	1.8
450.0 ～ 499.9	2.4	0.1	0.4	1.3	2.4	3.3	4.4	4.6	4.1	2.0	2.0
500.0 ～ 599.9	1.3	0.0	0.2	0.5	1.3	1.7	2.6	2.4	2.4	1.1	1.8
600.0 ～ 699.9	1.3	0.0	0.2	0.4	0.8	1.7	2.6	2.7	2.4	2.2	1.7
700.0 ～ 799.9	0.6	0.0	0.0	0.2	0.3	0.6	0.9	1.1	1.0	1.3	1.3
800.0 ～ 899.9	0.2	-	0.0	0.1	0.1	0.2	0.4	0.5	0.5	0.6	0.5
900.0 ～ 999.9	0.2	-	0.0	0.1	0.1	0.3	0.3	0.4	0.1	0.1	0.3
1000.0 ～	0.1	-	0.0	0.0	0.1	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2
1000.0 ～	0.2	-	0.0	0.1	0.1	0.3	0.2	0.5	0.4	0.2	0.7
平均値 (千円)	242.0	196.6	221.5	238.4	249.0	262.6	266.6	266.8	255.1	221.8	223.9
第1・十分位数 <sup>1)</sup> (千円)	149.3	150.8	158.2	158.2	155.4	153.4	150.4	148.1	142.9	131.2	126.7
第1・四分位数 <sup>1)</sup> (千円)	176.9	170.4	185.0	188.6	188.5	186.3	180.5	177.1	168.8	150.9	147.1
中位数 <sup>1)</sup> (千円)	218.2	193.4	215.5	228.3	233.5	241.3	237.0	230.9	218.1	183.9	178.9
第3・四分位数 <sup>1)</sup> (千円)	276.8	218.9	249.1	273.3	289.1	308.0	318.5	315.8	302.6	242.4	241.7
第9・十分位数 <sup>1)</sup> (千円)	357.4	246.1	288.2	323.3	356.2	385.6	415.0	421.0	412.7	356.1	367.4
十分位分散係数 <sup>2)</sup>	0.48	0.25	0.30	0.36	0.43	0.48	0.56	0.59	0.62	0.61	0.67
	(0.48)	(0.25)	(0.31)	(0.38)	(0.43)	(0.48)	(0.56)	(0.61)	(0.62)	(0.63)	(0.61)
四分位分散係数 <sup>2)</sup>	0.23	0.13	0.15	0.19	0.22	0.25	0.29	0.30	0.31	0.25	0.26
	(0.23)	(0.13)	(0.15)	(0.19)	(0.22)	(0.26)	(0.30)	(0.31)	(0.32)	(0.26)	(0.24)

注：（ ）内は、平成26年の数値である。

「十分位数」、「中位数」及び「分散係数」については左頁第9表の注:1)、2)を参照。

第8図 性、学歴、年齢階級別第1・十分位数、中位数及び第9・十分位数

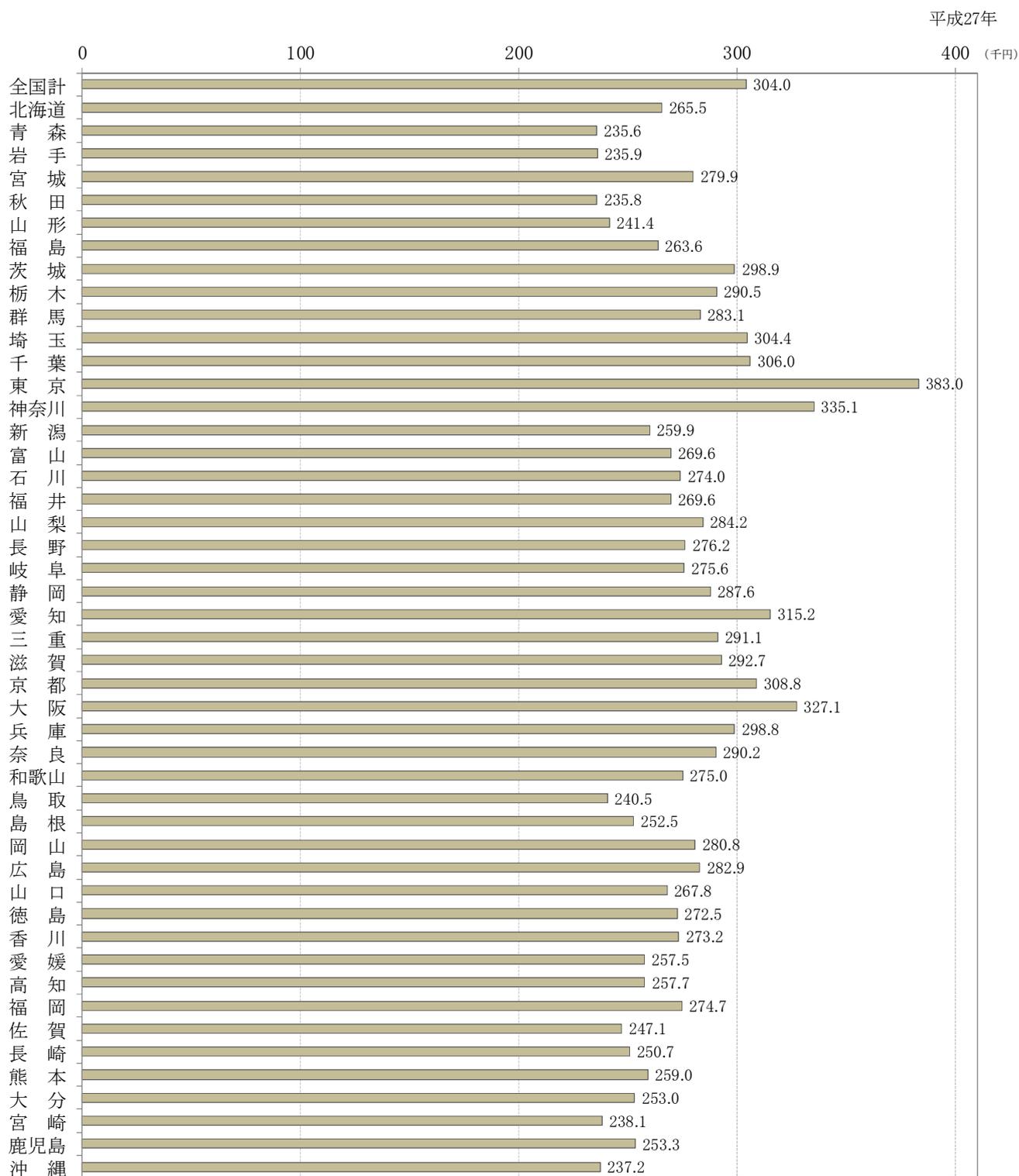


注：「十分位数」及び「中位数」については左頁第9表の注:1)を参照。

### (8) 都道府県別の賃金

都道府県別の賃金の水準をみると、全国計（304.0千円）よりも賃金が高かったのは7都府県（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、愛知県、京都府、大阪府）となり、最も高かったのは東京都（383.0千円）となっている（第9図）。

第9図 都道府県別賃金（男女計）



(9) 製造業における労働者の種類別にみた賃金

製造業について、賃金がピークとなる年齢階級を労働者の種類別にみると、男性では、生産労働者が55～59歳で326.2千円、管理・事務・技術労働者が50～54歳で497.6千円、女性では、生産労働者が40～44歳で195.3千円、管理・事務・技術労働者が45～49歳で284.4千円となっている（第10表）。

第10表 製造業の労働者の種類、性、年齢階級別賃金、対前年増減率及び年齢階級間賃金格差

平成27年

年齢階級	男						女					
	生産労働者			管理・事務・技術労働者			生産労働者			管理・事務・技術労働者		
	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	年齢階級間 賃金格差 (20～24歳 =100)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	年齢階級間 賃金格差 (20～24歳 =100)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	年齢階級間 賃金格差 (20～24歳 =100)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	年齢階級間 賃金格差 (20～24歳 =100)
年齢計	267.4	-0.4	136.6	392.4	1.0	186.6	180.5	1.7	104.8	251.9	2.6	128.5
20～24歳	195.8	0.1	100.0	210.3	0.8	100.0	172.3	2.1	100.0	196.0	1.7	100.0
25～29	222.2	1.3	113.5	251.7	1.2	119.7	177.8	1.5	103.2	221.9	1.0	113.2
30～34	247.0	0.2	126.1	302.6	1.9	143.9	185.6	2.1	107.7	237.8	-0.8	121.3
35～39	270.3	0.1	138.0	346.9	0.9	165.0	184.6	-0.8	107.1	253.6	3.5	129.4
40～44	296.0	-0.5	151.2	398.0	0.1	189.3	195.3	1.8	113.3	263.2	1.9	134.3
45～49	312.0	-1.2	159.3	460.0	1.3	218.7	189.9	3.1	110.2	284.4	4.3	145.1
50～54	320.8	-3.0	163.8	497.6	1.4	236.6	188.2	3.3	109.2	282.2	1.1	144.0
55～59	326.2	0.5	166.6	496.9	0.2	236.3	178.4	0.8	103.5	275.4	3.2	140.5
60～64	231.5	2.5	118.2	329.2	3.1	156.5	155.4	0.7	90.2	216.7	4.7	110.6
65～69	221.0	2.6	112.9	333.9	-2.3	158.8	152.0	0.8	88.2	222.2	-5.4	113.4
年齢(歳)	41.0			44.1			43.9			41.0		
勤続年数(年)	13.6			17.5			11.1			13.1		

(10) 役職別にみた賃金

企業全体の常用労働者が100人以上の企業に属する労働者について、役職別の賃金をみると、男性では、部長級662.8千円（前年比0.8%増）、課長級529.9千円（同1.5%増）、係長級400.8千円（同2.1%増）、女性では、部長級647.5千円（同10.5%増）、課長級460.7千円（同-1.3%減）、係長級353.6千円（同-0.1%減）となっている（第11表）。

第11表 役職、性別賃金、対前年増減率及び役職・非役職間賃金格差  
(企業規模100人以上)

平成27年

役職	男				女			
	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	役職・非役職間賃金 格差(非役職者20～ 24歳=100)	年齢 (歳)	賃金 (千円)	対前年 増減率 (%)	役職・非役職間賃金 格差(非役職者20～ 24歳=100)	年齢 (歳)
部長級	662.8	0.8	314.0 (315.5)	52.4	647.5	10.5	311.6 (287.3)	53.0
課長級	529.9	1.5	251.0 (250.6)	48.0	460.7	-1.3	221.7 (229.0)	48.2
係長級	400.8	2.1	189.9 (188.4)	44.1	353.6	-0.1	170.2 (173.6)	44.0
非役職者 (20～24歳)	211.1	1.3	100.0 (100.0)		207.8	1.9	100.0 (100.0)	

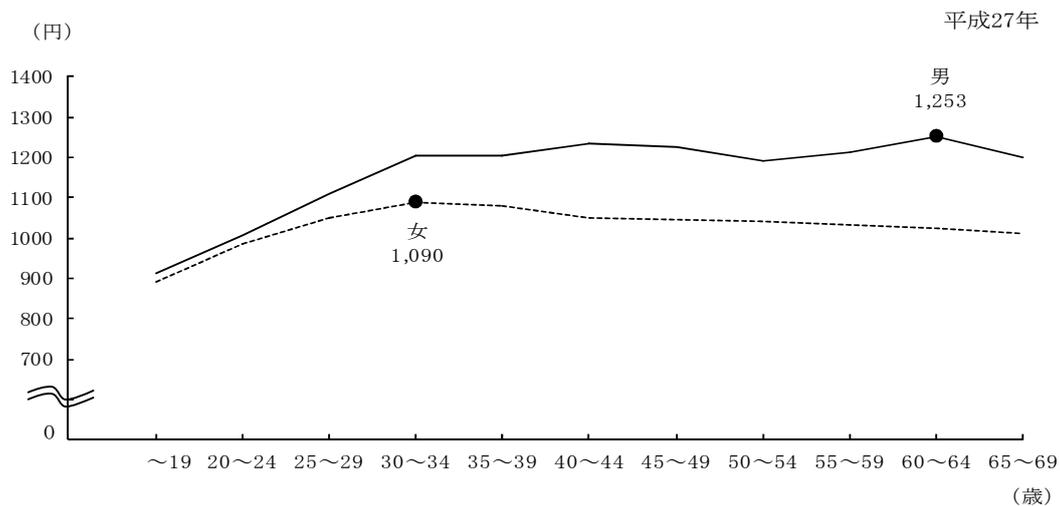
注：( )内は、平成26年の数値である。

## 2 短時間労働者の賃金

### (1) 年齢階級別にみた賃金

短時間労働者の1時間当たり賃金は、男性が1,133円（前年比1.2%増）、女性が1,032円（同2.0%増）で、いずれも過去最高となっている。年齢階級別にみると、男性は20～24歳以降、女性は25～29歳以降で1,000円を超えており、最も賃金が高い年齢階級は、男性では、60～64歳で1,253円、女性では、30～34歳で1,090円となっている。（第10図、第12表）

第10図 短時間労働者の性、年齢階級別1時間当たり賃金



第12表 短時間労働者の性、年齢階級別1時間当たり賃金、対前年増減率及び年齢階級間賃金格差

年齢階級	男			女		
	1時間 当たり賃金 (円)	対前年 増減率 (%)	年齢階級間 賃金格差 (20～24歳 =100)	1時間 当たり賃金 (円)	対前年 増減率 (%)	年齢階級間 賃金格差 (20～24歳 =100)
年齢計	1,133	1.2	112.3	1,032	2.0	104.7
～19歳	914	3.5	90.6	892	1.6	90.5
20～24	1,009	3.5	100.0	986	3.6	100.0
25～29	1,109	2.3	109.9	1,052	2.6	106.7
30～34	1,204	3.1	119.3	1,090	1.6	110.5
35～39	1,205	3.1	119.4	1,082	2.3	109.7
40～44	1,233	1.1	122.2	1,048	2.4	106.3
45～49	1,227	-1.4	121.6	1,046	2.5	106.1
50～54	1,191	-0.6	118.0	1,040	2.2	105.5
55～59	1,214	3.5	120.3	1,032	2.2	104.7
60～64	1,253	-1.3	124.2	1,022	1.9	103.7
65～69	1,198	-2.2	118.7	1,010	-0.5	102.4
年齢(歳)	43.9			45.9		
実労働日数(日)	15.6			16.8		
1日当たり所定内 実労働時間数(時間)	5.5			5.3		
勤続年数(年)	5.3			5.8		

## (2) 企業規模別にみた賃金

企業規模別に1時間当たり賃金をみると、男性では、大企業が1,088円（前年比1.5%増）、中企業が1,153円（同0.5%減）、小企業が1,172円（同1.5%増）、女性では、大企業が1,025円（同1.8%増）、中企業が1,045円（同1.4%増）、小企業が1,032円（同3.1%増）となっている（第13表）。

第13表 短時間労働者の企業規模、性別1時間当たり賃金、対前年増減率及び企業規模間賃金格差

平成27年						
企業規模	男			女		
	1時間 当たり賃金 (円)	対前年 増減率 (%)	企業規模間 賃金格差 (大企業= 100)	1時間 当たり賃金 (円)	対前年 増減率 (%)	企業規模間 賃金格差 (大企業= 100)
大企業	1,088	1.5	100.0	1,025	1.8	100.0
中企業	1,153	-0.5	106.0	1,045	1.4	102.0
小企業	1,172	1.5	107.7	1,032	3.1	100.7

## (3) 産業別にみた賃金

主な産業別に1時間当たり賃金をみると、男性では、製造業、運輸業、郵便業、卸売業、小売業、サービス業（他に分類されないもの）が1,000円を超え、女性では医療、福祉、サービス業（他に分類されないもの）が1,000円を超えている（第14表）。

第14表 短時間労働者の主な産業、性別1時間当たり賃金、対前年増減率及び産業間賃金格差

平成27年				
性、産業		1時間当たり賃金(円)	対前年増減率 (%)	産業間賃金格差 (産業計=100)
男	産業計 <sup>1)</sup>	1,133	1.2	100.0
	製造業	1,141	-3.8	100.7
	運輸業, 郵便業	1,168	3.2	103.1
	卸売業, 小売業	1,008	-0.4	89.0
	宿泊業, 飲食サービス業	960	2.0	84.7
	サービス業(他に分類されないもの)	1,127	-0.8	99.5
女	産業計 <sup>1)</sup>	1,032	2.0	100.0
	製造業	915	-0.2	88.7
	卸売業, 小売業	954	1.6	92.4
	宿泊業, 飲食サービス業	930	2.0	90.1
	医療, 福祉	1,257	2.1	121.8
	サービス業(他に分類されないもの)	1,002	1.3	97.1

注: 1) 産業計には、上掲のほか、男女とも、鉱業、採石業、砂利採取業、建設業、電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、金融業、保険業、不動産業、物品賃貸業、学術研究、専門・技術サービス業、生活関連サービス業、娯楽業、教育、学習支援業、複合サービス事業を含み、更に、男性では医療、福祉、女性では運輸業、郵便業を含む。

### 3 新規学卒者の初任給

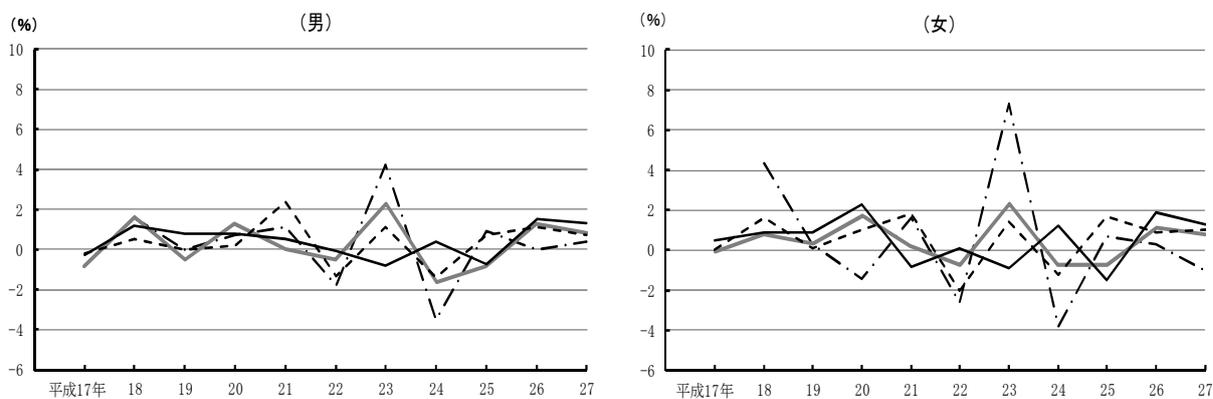
#### (1) 学歴別にみた初任給

平成27年の初任給を高校卒以上の学歴別にみると、男女計、男女別ともに、女性の大学院修士課程修了を除き、全ての学歴で前年を上回っている（第11図、第15表、第12図）。

男女計	大学院修士課程修了	228.5 千円	(対前年増減率 0.1%)
	大 学 卒	202.0 千円	( " 0.8%)
	高 専 ・ 短 大 卒	175.6 千円	( " 0.9%)
	高 校 卒	160.9 千円	( " 1.3%)
男性	大学院修士課程修了	228.5 千円	(対前年増減率 0.4%)
	大 学 卒	204.5 千円	( " 0.8%)
	高 専 ・ 短 大 卒	177.3 千円	( " 0.7%)
	高 校 卒	163.4 千円	( " 1.3%)
女性	大学院修士課程修了	228.5 千円	(対前年増減率 -1.0%)
	大 学 卒	198.8 千円	( " 0.8%)
	高 専 ・ 短 大 卒	174.6 千円	( " 1.0%)
	高 校 卒	156.2 千円	( " 1.3%)

第11図 性、学歴別初任給の対前年増減率の推移

--- 大学院修士課程修了<sup>1)</sup> — 大学卒 -- 高専・短大卒 — 高校卒



注：1) 大学院修士課程修了については、平成17年から調査している。

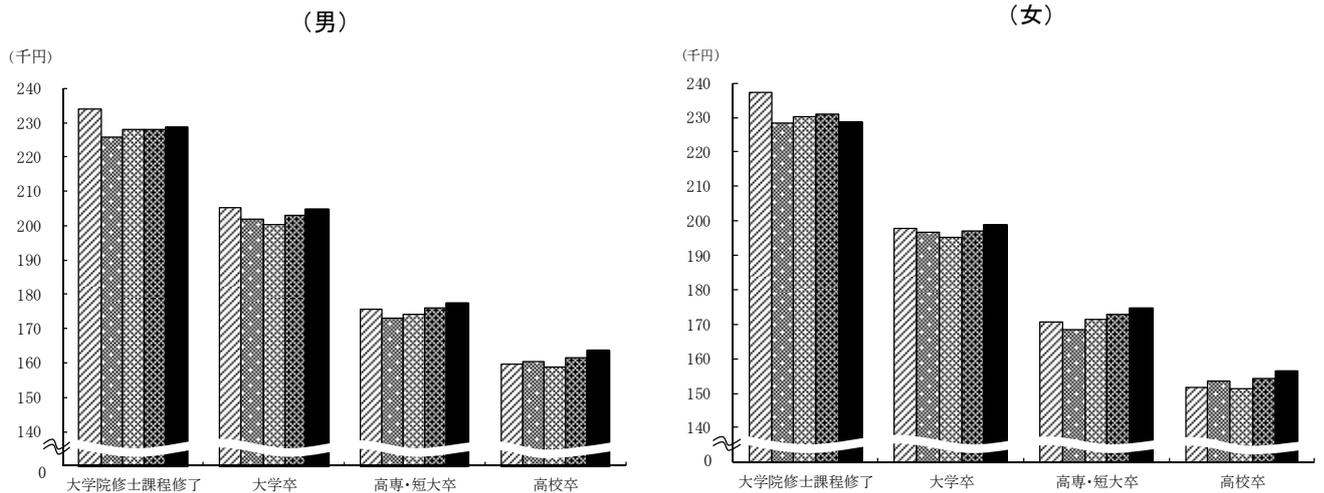
第15表 性、学歴別初任給の推移

年	男女計				男				女			
	大学院修士課程修了	大学卒	高専・短大卒	高校卒	大学院修士課程修了	大学卒	高専・短大卒	高校卒	大学院修士課程修了	大学卒	高専・短大卒	高校卒
平成 23年	千円 234.5 ( 4.7)	千円 202.0 ( 2.3)	千円 172.5 ( 1.3)	千円 156.5 (-0.8)	千円 233.9 ( 4.2)	千円 205.0 ( 2.3)	千円 175.5 ( 1.1)	千円 159.4 (-0.8)	千円 237.3 ( 7.3)	千円 197.9 ( 2.3)	千円 170.5 ( 1.4)	千円 151.8 (-0.9)
24	226.1 (-3.6)	199.6 (-1.2)	170.1 (-1.4)	157.9 ( 0.9)	225.6 (-3.5)	201.8 (-1.6)	173.0 (-1.4)	160.1 ( 0.4)	228.4 (-3.8)	196.5 (-0.7)	168.4 (-1.2)	153.6 ( 1.2)
25	228.1 ( 0.9)	198.0 (-0.8)	172.2 ( 1.2)	156.0 (-1.2)	227.7 ( 0.9)	200.2 (-0.8)	174.2 ( 0.7)	158.9 (-0.7)	230.0 ( 0.7)	195.1 (-0.7)	171.2 ( 1.7)	151.3 (-1.5)
26	228.3 ( 0.1)	200.4 ( 1.2)	174.1 ( 1.1)	158.8 ( 1.8)	227.7 ( 0.0)	202.9 ( 1.3)	176.1 ( 1.1)	161.3 ( 1.5)	230.7 ( 0.3)	197.2 ( 1.1)	172.8 ( 0.9)	154.2 ( 1.9)
27	228.5 ( 0.1)	202.0 ( 0.8)	175.6 ( 0.9)	160.9 ( 1.3)	228.5 ( 0.4)	204.5 ( 0.8)	177.3 ( 0.7)	163.4 ( 1.3)	228.5 (-1.0)	198.8 ( 0.8)	174.6 ( 1.0)	156.2 ( 1.3)

注： ( )内は、対前年増減率(%)である。

第12図 性、学歴別初任給の推移

▨平成23年 ▩平成24年 ▧平成25年 ▦平成26年 ■平成27年



(2) 企業規模別にみた初任給

企業規模別の初任給を学歴別にみると、大学卒では、男女ともに大企業（常用労働者1,000人以上）、

中企業（同100～999人）、小企業（同10～99人）の全ての企業規模において前年を上回っている。また、高校卒では、前年と同額だった小企業の女性を除き、男女ともに全ての企業規模において前年を上回っている。（第16表）

第16表 性、企業規模、学歴別初任給、対前年増減率及び企業規模間格差

性、企業規模		大学院修士課程修了			大 学 卒			高専・短大卒			高 校 卒			
		初任給 (千円)		対前年 増減率 (%)										
		平成27年	26年		平成27年	26年		平成27年	26年		平成27年	26年		
初任給及び対前年増減率	男女計	企業規模計	228.5	228.3	0.1	202.0	200.4	0.8	175.6	174.1	0.9	160.9	158.8	1.3
		大企業	232.2	232.6	-0.2	205.2	203.3	0.9	183.3	178.3	2.8	162.5	160.9	1.0
		中企業	221.1	220.7	0.2	201.1	200.1	0.5	176.6	176.4	0.1	159.6	158.1	0.9
		小企業	222.2	221.2	0.5	194.9	194.2	0.4	169.6	169.7	-0.1	161.5	158.3	2.0
	男	企業規模計	228.5	227.7	0.4	204.5	202.9	0.8	177.3	176.1	0.7	163.4	161.3	1.3
		大企業	232.0	231.8	0.1	206.9	205.5	0.7	180.9	178.0	1.6	163.1	161.5	1.0
		中企業	220.8	221.0	-0.1	204.1	202.6	0.7	177.8	176.5	0.7	162.0	161.0	0.6
		小企業	222.2	216.4	2.7	198.1	197.3	0.4	171.6	173.9	-1.3	166.1	161.7	2.7
	女	企業規模計	228.5	230.7	-1.0	198.8	197.2	0.8	174.6	172.8	1.0	156.2	154.2	1.3
		大企業	233.6	236.9	-1.4	203.1	200.5	1.3	185.2	178.7	3.6	160.9	159.2	1.1
		中企業	221.9	219.6	1.0	197.2	196.5	0.4	175.6	176.4	-0.5	156.1	153.9	1.4
		小企業	222.1	230.5	-3.6	191.5	190.4	0.6	169.0	168.0	0.6	151.8	151.8	0.0
企業規模間格差	男女計	中企業	95.2	94.9	/	98.0	98.4	/	96.3	98.9	/	98.2	98.3	/
		小企業	95.7	95.1	/	95.0	95.5	/	92.5	95.2	/	99.4	98.4	/
	男	中企業	95.2	95.3	/	98.6	98.6	/	98.3	99.2	/	99.3	99.7	/
		小企業	95.8	93.4	/	95.7	96.0	/	94.9	97.7	/	101.8	100.1	/
	女	中企業	95.0	92.7	/	97.1	98.0	/	94.8	98.7	/	97.0	96.7	/
		小企業	95.1	97.3	/	94.3	95.0	/	91.3	94.0	/	94.3	95.4	/

注：1) 企業規模については、常用労働者1,000人以上の企業を大企業、100～999人の企業を中企業、10～99人の企業を小企業としている。

2) 企業規模間格差については、大企業の初任給を100としている。

### (3) 産業別にみた初任給

第17表に掲載する主な産業について初任給を学歴別にみると、大学卒では、男女ともに「学術研究，専門・技術サービス業」（男性212.2千円、女性212.2千円）が最も高くなっている。一方、最も低い産業は、男女ともに「運輸業，郵便業」（男性193.6千円、女性182.4千円）となっている。高校卒では、男女ともに「生活関連サービス業，娯楽業」（男性172.8千円、女性166.9千円）が最も高くなっている。一方、最も低い産業は、男性は「医療，福祉」（146.4千円）、女性は「教育，学習支援業」（149.1千円）となっている。（第17表）

第17表 性、産業、学歴別初任給及び対前年増減率

性、産業	大学院修士課程修了			大 学 卒			高専・短大卒			高 校 卒			
	初任給 (千円)		対前年 増減率 (%)	初任給 (千円)		対前年 増減率 (%)	初任給 (千円)		対前年 増減率 (%)	初任給 (千円)		対前年 増減率 (%)	
	平成27年	26年		平成27年	26年		平成27年	26年		平成27年	26年		
男	産 業 計 <sup>1)</sup>	228.5	228.3	0.1	202.0	200.4	0.8	175.6	174.1	0.9	160.9	158.8	1.3
	建 設 業	228.8	231.1	-1.0	209.7	201.5	4.1	184.7	181.0	2.0	168.1	164.9	1.9
	製 造 業	228.5	225.6	1.3	202.0	198.9	1.6	175.4	173.5	1.1	161.5	158.9	1.6
	情 報 通 信 業	228.8	225.5	1.5	209.0	209.0	0.0	183.9	182.9	0.5	163.1	164.7	-1.0
	運 輸 業， 郵 便 業	228.2	215.8	5.7	189.3	192.9	-1.9	175.9	174.3	0.9	167.3	158.2	5.8
	卸 売 業， 小 売 業	229.3	243.7	-5.9	201.6	202.2	-0.3	174.2	171.0	1.9	157.7	161.6	-2.4
	金 融 業， 保 険 業	231.3	225.1	2.8	201.2	196.1	2.6	165.1	164.6	0.3	158.4	145.9	8.6
	学術研究，専門・技術サービス業	228.5	232.7	-1.8	212.2	216.9	-2.2	172.2	177.1	-2.8	158.5	160.1	-1.0
	宿泊業，飲食サービス業	* 199.9	192.5	3.8	193.0	191.1	1.0	165.2	166.2	-0.6	155.9	155.0	0.6
	生活関連サービス業，娯楽業	212.8	219.4	-3.0	201.8	200.9	0.4	166.4	159.5	4.3	168.4	163.5	3.0
女	産 業 計 <sup>1)</sup>	228.5	227.7	0.4	204.5	202.9	0.8	177.3	176.1	0.7	163.4	161.3	1.3
	建 設 業	228.3	232.1	-1.6	210.3	203.5	3.3	185.4	183.6	1.0	168.9	165.3	2.2
	製 造 業	228.5	225.4	1.4	203.1	199.9	1.6	178.3	176.2	1.2	162.6	161.2	0.9
	情 報 通 信 業	228.1	225.1	1.3	208.5	210.0	-0.7	184.9	182.2	1.5	169.1	174.2	-2.9
	運 輸 業， 郵 便 業	228.9	217.2	5.4	193.6	194.1	-0.3	180.1	175.7	2.5	169.9	159.4	6.6
	卸 売 業， 小 売 業	229.6	240.3	-4.5	204.2	203.3	0.4	173.8	169.2	2.7	159.1	164.2	-3.1
	金 融 業， 保 険 業	231.3	226.0	2.3	206.0	203.0	1.5	195.8	178.6	9.6	155.9	147.2	5.9
	学術研究，専門・技術サービス業	228.8	232.4	-1.5	212.2	215.4	-1.5	175.0	185.1	-5.5	160.1	163.6	-2.1
	宿泊業，飲食サービス業	* 205.7	185.2	11.1	201.2	198.6	1.3	166.5	168.1	-1.0	160.4	157.7	1.7
	生活関連サービス業，娯楽業	219.0	221.0	-0.9	207.2	205.5	0.8	167.8	162.5	3.3	172.8	165.3	4.5
男	産 業 計 <sup>1)</sup>	228.5	230.7	-1.0	198.8	197.2	0.8	174.6	172.8	1.0	156.2	154.2	1.3
	建 設 業	233.4	222.3	5.0	207.8	194.3	6.9	182.0	176.5	3.1	156.5	157.6	-0.7
	製 造 業	228.5	226.4	0.9	199.4	196.3	1.6	170.3	168.9	0.8	158.2	152.9	3.5
	情 報 通 信 業	233.0	227.5	2.4	209.8	207.2	1.3	180.6	185.6	-2.7	158.8	160.1	-0.8
	運 輸 業， 郵 便 業	222.0	206.4	7.6	182.4	190.9	-4.5	169.3	171.7	-1.4	153.5	151.7	1.2
	卸 売 業， 小 売 業	228.4	251.7	-9.3	197.4	200.3	-1.4	174.7	174.9	-0.1	156.5	159.2	-1.7
	金 融 業， 保 険 業	231.4	222.6	4.0	197.5	190.5	3.7	160.8	163.0	-1.3	158.7	145.7	8.9
	学術研究，専門・技術サービス業	227.2	233.7	-2.8	212.2	219.3	-3.2	169.4	169.1	0.2	154.5	153.9	0.4
	宿泊業，飲食サービス業	* 196.5	* 208.7	-5.8	188.1	185.8	1.2	164.2	164.9	-0.4	153.3	153.3	0.0
	生活関連サービス業，娯楽業	200.9	* 210.0	-4.3	197.4	196.1	0.7	165.8	158.7	4.5	166.9	162.8	2.5
女	産 業 計 <sup>1)</sup>	228.5	230.7	-1.0	198.8	197.2	0.8	174.6	172.8	1.0	156.2	154.2	1.3
	建 設 業	233.4	222.3	5.0	207.8	194.3	6.9	182.0	176.5	3.1	156.5	157.6	-0.7
	製 造 業	228.5	226.4	0.9	199.4	196.3	1.6	170.3	168.9	0.8	158.2	152.9	3.5
	情 報 通 信 業	233.0	227.5	2.4	209.8	207.2	1.3	180.6	185.6	-2.7	158.8	160.1	-0.8
	運 輸 業， 郵 便 業	222.0	206.4	7.6	182.4	190.9	-4.5	169.3	171.7	-1.4	153.5	151.7	1.2
	卸 売 業， 小 売 業	228.4	251.7	-9.3	197.4	200.3	-1.4	174.7	174.9	-0.1	156.5	159.2	-1.7
	金 融 業， 保 険 業	231.4	222.6	4.0	197.5	190.5	3.7	160.8	163.0	-1.3	158.7	145.7	8.9
	学術研究，専門・技術サービス業	227.2	233.7	-2.8	212.2	219.3	-3.2	169.4	169.1	0.2	154.5	153.9	0.4
	宿泊業，飲食サービス業	* 196.5	* 208.7	-5.8	188.1	185.8	1.2	164.2	164.9	-0.4	153.3	153.3	0.0
	生活関連サービス業，娯楽業	200.9	* 210.0	-4.3	197.4	196.1	0.7	165.8	158.7	4.5	166.9	162.8	2.5
教育，学習支援業	226.0	249.6	-9.5	196.4	195.4	0.5	173.8	175.3	-0.9	149.1	152.8	-2.4	
医 療， 福 祉	215.2	196.2	9.7	198.3	196.7	0.8	178.8	175.3	2.0	152.3	151.7	0.4	
サ ー ビ ス 業 (他に分類されないもの)	238.6	208.0	14.7	199.8	199.7	0.1	166.7	164.3	1.5	152.1	155.5	-2.2	

注：1) 産業計には、上掲の産業のほか、鉱業、採石業、砂利採取業、電気・ガス・熱供給・水道業、不動産業、物品賃貸業及び複合サービス事業を含む。

(4) 学歴別にみた初任給の分布

初任給の分布を学歴別にみると、大学卒では、男女とも20万円台が最も多く、それぞれ36.1%、24.8%となっている。高校卒では、男性で16万円台が最も多く（39.8%）、女性で15万円台が最も多く（28.0%）となっている。（第18表）

第 18 表 初任給の階級、性、学歴別新規学卒者数割合

平成27年

初任給の階級 千円	男				女				計			
	大学院 修士課程 修了	大 学 卒	高専・短大卒	高 校 卒	大学院 修士課程 修了	大 学 卒	高専・短大卒	高 校 卒	大学院 修士課程 修了	大 学 卒	高専・短大卒	高 校 卒
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
～ 109.9				0.2				0.2				0.1
110.0 ～ 119.9				0.4				0.1				0.9
120.0 ～ 129.9			0.7	2.1			1.0	1.5			0.6	3.3
130.0 ～ 139.9			1.8	5.4			1.2	3.5			2.1	9.0
140.0 ～ 149.9		0.7	5.3	10.9		0.6	3.0	8.5		0.9	6.7	15.6
150.0 ～ 159.9		2.4	14.2	24.2		2.0	10.9	22.2		2.8	16.0	28.0
160.0 ～ 169.9	0.3	3.5	18.0	35.2	0.3	2.0	15.9	39.8	0.4	5.5	19.2	26.5
170.0 ～ 179.9	0.3	6.7	21.9	12.0	0.2	4.6	27.9	12.3	0.2	9.3	18.6	11.4
180.0 ～ 189.9	1.5	10.6	18.9	4.8	0.9	7.7	21.3	6.2	4.6	14.1	17.5	2.3
190.0 ～ 199.9	2.3	15.5	7.4	1.5	2.1	15.1	7.5	1.6	3.2	16.0	7.4	1.3
200.0 ～ 209.9	5.3	31.0	4.3	3.3	5.0	36.1	5.1	4.3	6.7	24.8	3.8	1.5
210.0 ～ 219.9	15.0	13.5	2.8		14.6	15.3	2.6		17.3	11.2	2.9	
220.0 ～ 229.9	28.5	7.2	2.0		29.7	7.4	1.1		23.0	6.8	2.5	
230.0 ～ 239.9	28.7	3.2	2.7		30.1	3.3	2.6		21.8	2.9	2.8	
240.0 ～ 249.9	10.8	2.3			10.4	2.6			12.9	2.0		
250.0 ～ 259.9	3.4	1.7			3.5	1.2			2.8	2.2		
260.0 ～ 269.9	1.3	1.4			1.1	1.5			2.2	1.2		
270.0 ～ 279.9	1.0				0.9				1.8			
280.0 ～ 299.9	0.7				0.6				1.4			
300.0 ～	1.0	0.4			0.7	0.5			2.2	0.3		
平均額 (千円)	228.5 (228.3)	202.0 (200.4)	175.6 (174.1)	160.9 (158.8)	228.5 (227.7)	204.5 (202.9)	177.3 (176.1)	163.4 (161.3)	228.5 (230.7)	198.8 (197.2)	174.6 (172.8)	156.2 (154.2)
第1・十分位数 (千円) <sup>1)</sup>	210.2 (207.4)	174.8 (173.0)	151.2 (150.1)	141.5 (140.0)	210.9 (208.2)	180.8 (176.9)	154.8 (152.7)	145.7 (143.7)	202.1 (199.8)	170.7 (169.8)	150.3 (147.2)	136.3 (133.4)
中位数 (千円) <sup>1)</sup>	228.0 (229.4)	202.5 (201.6)	174.8 (172.4)	161.2 (160.2)	228.3 (229.1)	205.3 (203.1)	176.4 (175.2)	162.2 (161.7)	227.0 (230.5)	200.4 (197.3)	172.3 (171.1)	157.1 (153.6)
第9・十分位数 (千円) <sup>1)</sup>	244.3 (250.7)	227.0 (224.5)	202.4 (201.8)	179.5 (176.2)	243.4 (246.9)	227.9 (225.7)	201.5 (201.4)	181.6 (176.5)	250.2 (263.8)	226.1 (223.4)	203.7 (202.1)	174.0 (175.4)
十分位分散係数 <sup>2)</sup>	0.07 (0.09)	0.13 (0.13)	0.15 (0.15)	0.12 (0.11)	0.07 (0.08)	0.11 (0.12)	0.13 (0.14)	0.11 (0.10)	0.11 (0.14)	0.14 (0.14)	0.15 (0.16)	0.12 (0.14)

注：（ ）内は、平成26年の数値である。

- 1) 十分位数とは、分布の形を示す値である。具体的には、新規学卒者を初任給の低い者から高い者へと一列に並べて、低い方から全体の10分の1番目に該当する者の初任給が第1・十分位数、高い方から数えて全体の10分の1番目に該当する者の初任給が第9・十分位数、低い方（あるいは高い方）から数えて全体の2分の1番目（真ん中）に該当する者の初任給が中位数である。
- 2) 十分位分散係数とは、分布の広がりを示す指標の一つであり、次の算式により計算された数値をいう。一般に、その値が小さいほど分布の広がりの程度が小さいことを示す。

$$\text{十分位分散係数} = \frac{\text{第9・十分位数} - \text{第1・十分位数}}{2 \times \text{中位数}}$$

